

令和4年度

学校評価 自己評価報告書

茨城県結城看護専門学校  
学校評価委員会



# 令和4年度 学校評価 自己評価報告書

## I 学校の現況

### (1) 財団設立目的

茨城県内、主に県西地域の地域医療のために必要な看護師の養成確保と、県西地域に従事する看護職員の資質向上として、平成3年6月11日(平成25年4月1日公益財団法人に移行)に財団を設立した。平成5年4月の開校を目指して諸々の準備がなされ、平成4年12月に厚生省より看護婦養成所として指定を受けた。また平成5年3月に教育庁より専修学校として認可を受け、本校が開校されるに至った。事業内容は、①茨城県結城看護専門学校の運営 ②看護職員に対する研修の実施としている。

### (2) 学校設置目的

本校は、保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号。以下「法」という。)に基づき看護師として必要な専門的知識及び技術を習得させるとともに、豊かな人間性を養い、専門職業人としての自覚と責任をもった社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

### (3) 沿革

○所在地 茨城県結城市結城1211番地7 TEL 0296-33-1922

平成 3年 6月11日	財団法人茨城県看護教育財団設立認可
平成 4年 1月31日	教育庁に専修学校設置計画書提出、厚生省に看護婦養成所設置計画書提出
平成 4年 3月31日	教育庁より専修学校設置承認
平成 4年 12月15日	厚生省より看護婦養成所の指定 3年課程 1学年定員50名
平成 5年 3月 1日	教育庁より専修学校の認可 3年課程 1学年定員50名
平成 8年 3月 6日	第1回生46名 卒業
平成 9年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる)
平成17年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる)
平成21年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる。97単位3000時間)
平成22年 4月 1日	学則の改正(1学年定員40名となる)
平成24年 8月25日	学校創立20周年記念式典挙行
平成25年 4月 1日	公益財団法人へ移行
令和 4年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる。111単位3000時間)

### (4) 教育理念等

#### <教育理念>

本校は、学生の個性や主体性を尊重し、自己および他者への深い理解ができる豊かな人間性と倫理性を育む。また、専門職業人として生涯学び続け、他の専門職等と連携・協働し、社会の動向を見据え、常に必要かつ最高の看護を提供し、地域社会の健康と福祉の向上に貢献できる実践者の育成を目指す。このような考えに基づき、看護師として必要な基礎的能力を身につけ、必要とされるあらゆる場で看護が実践できる人材を育成する。

#### <教育目的>

看護師として必要な専門的知識及び技術を修得させるとともに、豊かな人間性を養い、専門職業人として自覚と責任をもって社会に貢献できる有能な人材を育成する。

#### <教育目標>

- 1 看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2 人間の健康を、環境との相互作用や心身相関の観点から理解し、人間を「生活者」としての視点で捉える基礎的能力を養う。
- 3 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として倫理に基づいた行動ができる能力を養う。
- 4 科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- 5 看護の役割と責任を自覚し、関係する人々と連携・協働できる能力を養う。
- 6 社会の要請に応えられる看護師を目指して、研究的態度や自己啓発していく姿勢を養う。

<求める入学生像>アドミッション・ポリシー

- 1 他者への関心が高く、温かな関心が向けられる人
- 2 看護師になるという明確な動機と目的意識を持っている人
- 3 探究心をもって、主体的に学習に取組む意欲のある人
- 4 他者の意見を聞き入れる柔軟さと素直さをもち、円滑にコミュニケーションがとれる人
- 5 心身ともに健やかで、常識的な行動が取れる人

<教育課程編成・実施の方針>カリキュラム・ポリシー

教育目的・目標の実現を目指し、必要な知識・技能などを修得させるために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行う。

教育課程については、「教育課程の基本的な考え方」に科目の設定、各分野の基本的な考え方、科目のねらいを示している。

<期待する卒業生像>ディプロマ・ポリシー

- 1 誠実で公平な倫理観を備えた人
- 2 対象を生活者として理解し、その人らしい生活を考えることができる人
- 3 科学的根拠に基づいた看護を、安全・安楽に実践できる人
- 4 専門職業人としての自覚と責任のもと、主体的な行動がとれる人
- 5 保健医療福祉チームにおいて、看護の機能と役割を果たすことができる人
- 6 広い視野で、生涯学習し続け、必要とされる看護を考え続けることができる人

(5) 学生数及び教職員数

<学生数>

	4月現員	退学者	R5年1月1日現在 在籍者
1学年(第30回生)	39人(男5・女34)	0人	39人
2学年(第29回生)	42人(男5・女37)	1人(進路変更)	41名(うち休学2人)
3学年(第28回生)	36人(男5・女31)	0	36人(うち休学1人)
合計	117人(男15・女102)	1人	116人(うち休学3人)

<教職員> 全教職員 17人 (R5年1月1日現在)

管理職 … 校長・事務長・教頭

事務職 … 事務長1人、主任1人、教務事務1人(司書兼務)、事務補助1人

教員 … 教務主任1人、実習調整者1人、実習調整補助1人、専任教員7人、実習指導教員1人

1学年:担任・副担任、2学年:担任・副担任、3学年:担任・副担任

職員内訳) \*財団職員 6人(学校長・専任教員2人・実習指導教員1人・教務事務1人・事務補助1人)

\*結城市職員 3人(事務長・事務主任・専任教員)

\*茨城県職員 5人(教頭・教務主任・専任教員3人)

\*病院派遣職員 3人(専任教員)

<係業務>

進路指導・国家試験対策・図書・テキスト・視聴覚教材・実習室管理・保健室薬品管理

環境衛生・自治会・体育館管理

<領域別>

基礎看護学・成人看護学・老年看護学・地域・在宅看護論・小児看護学・母性看護学

精神看護学・看護の統合と実践

## II 学校評価について

### I はじめに

当校の教職員が自校の運営状況を点検する自己評価は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局通知「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に、平成29年度から開始した。

平成30年度から、学校関係者評価を開始した。令和3年度からは、評価の客観性を高め、教育の充実を図るため、学校関係評価者を2名から9名に増員し評価体制を充実させた。毎年、学校内部で評価した結果を報告書にまとめ、学校関係者評価委員会を開催し、客観的な視点から評価・意見等をいただいている。年度末には、自己評価及び学校関係者からの評価結果をホームページに公表している。

### 2 評価体制

- ・学校評価委員は校長、教頭、事務長、教務主任の4名。必要な事項は実施要綱に定めて管理・運営している。
- ・学校関係者委員は実習施設から関係者4名、教育機関から3名、卒業生代表・行政から各1名の9名体制である。

### 3 評価の種類

- (1) 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による自己評価」
- (2) 令和4年度の重点目標(組織目標)達成に向けた取組状況を評価する「重点目標の評価」
- (3) その他、次の4つの取組みを評価

- ・学生の学校生活満足度調査結果
- ・公開授業「看護技術」に参加した実習指導者との意見交換、アンケート調査結果
- ・授業参観に参加した保護者アンケート調査結果
- ・看護職員研修(財団研修)に参加した看護職員アンケート調査結果

## II 教職員による自己評価

### I 学校運営評価

(1) 評価項目は、大項目9個、中項目23個、小項目は57個、細項目は115個(下表参照)

(2) 評価基準は、4段階(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切) \*細項目 R3:164→R4:115項目

大項目(9項目)	中項目(23項目)	小項目数(57)	細項目(115)
1 教育理念・目標	1) 教育理念、目的、目標の評価	1	2
	2) 将来構想の明確化	1	2
2 学生受け入れ	1) 学生募集の方法	2	5
	2) 入学選抜の方法	1	1
	3) 学生定員の量・質の充足・学生募集評価	2	3
3 学生支援	1) 学業継続の支援	5	8
	2) 社会人の支援	1	1
4 教育活動	1) 教育課程の編成	2	3
	2) 教授・学習評価過程	6	15
	3) 単位管理	1	2
	4) 指導者の確保・育成	3	6
	5) 学修成果	4	8
5 教育環境	1) 教育環境の整備	4	11
	2) 実習施設の整備	2	5
	3) 安全対策	1	2
6 学校管理・運営	1) 学校経営	2	2
	2) 組織管理	6	16
	3) 教職員の育成	2	4
	4) 卒業生の支援	1	3
	5) 評価	1	2
7 財務	1) 財務・収支	3	5
8 法令の整備	1) 法令・規程の整備	3	6
9 社会貢献	1) 社会・地域貢献	3	3

## 2 自己評価の実施

対象:教職員 13名(学校長除く) 内訳:教員 11名、事務職員 2名

評価基準日:11月30日 調査期間:令和4年11月30日~12月9日

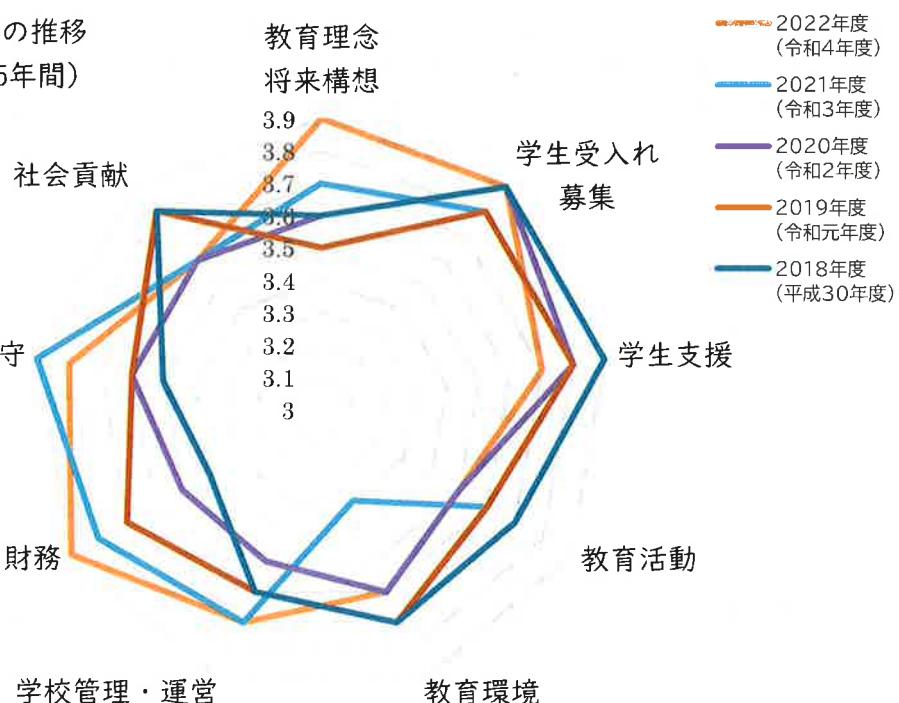
調査方法:校内ネットワークを用い、教職員個別にデータを入力。入力データをもとに集計。

## 3 自己評価表の集計結果

有効回答 100% 評価基準 : 4(適切) 3(ほぼ適切) 2(やや不適切) 1(不適切)

大項目	令和4年度 (前年度比較)	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
1 教育理念・将来構想	3.9(↑)	3.7	3.6	3.5	3.6
2 学生受入れ募集	3.9(↑)	3.8	3.9	3.8	3.9
3 学生支援	3.7(↓)	3.8	3.8	3.8	3.9
4 教育活動	3.5(↓)	3.6	3.5	3.6	3.7
5 教育環境	3.6(↑)	3.3	3.6	3.7	3.7
6 学校管理・運営	3.7(→)	3.7	3.5	3.6	3.6
7 財務	3.9(↑)	3.8	3.5	3.7	3.4
8 法令の厳守	3.8(↓)	3.9	3.6	3.6	3.5
9 社会貢献	3.6(→)	3.6	3.6	3.8	3.8

学校運営自己評価の推移  
(2018~2022年の5年間)



#### 4 大項目評価（前年度比較の増減の要因）

大項目(評価)		前年度比較の増減の要因
1 教育理念・将来構想	3.9(↑)	年度当初に運営方針やアクションプランなどの年度目標を教職員に周知。各委員会の活動に反映させ目標設定している。取組み状況は9月に中間・3月に最終評価を行い、課題解決に繋げている。
2 学生受入れ募集	3.9(↑)	コロナ禍であるが、進学ガイダンスへの参加や、高校訪問は以前同様に積極的に再開したことから評価が若干上がった。感染対策を講じ、オンラインキャンパスは対面(在校生参加)で行い、9月10月の見学会は個別対応をする等、工夫して募集活動を実施した。
3 学生支援	3.7(↓)	コロナ禍でも就職活動支援、学生の心理相談は同様に実施した。評価が2ポイント台だったのは「学生自治会の活動」であった。従来実施したスポーツ大会や親睦を深める活動が実施できないことが要因であるが、学生が主体的に活動できるための教員のかかわりを含め、自治会の活用方法とあり方の検討が必要である。
4 教育活動	3.5(↓)	新カリキュラム運用開始となり、旧カリキュラム運用学年と混在したカリキュラム運営により繁雑化している。評価が低い項目は、教員の授業科目の担当時間、新人教員へのサポート体制、教育実践力、学生の看護実践力の向上への支援であった。教育の質を高める教員の実習指導方法の改善や教授力の向上のための学習会の企画、新人教員の受け入れ体制の整備が急務である。
5 教育環境	3.6(↑)	校舎の整備や図書室の整備・管理は上昇した。また、オンライン授業の学習環境は整い、感染拡大の状況に合わせてオンラインへの移行など柔軟に対応できた。評価が低い項目は、実習施設の整備、実習中の指導体制(実習調整会議の効果的運用)、防災訓練の中止になったこと等によるものであった。
6 学校管理・運営	3.7(→)	評価が高い項目は組織管理の危機管理、会議運営、データ管理であった。低い項目は、ワーク・ライフ・バランスの推進への取り組み、職員の協働意欲であった。閉庁時刻は昨年より早くなつたが、持ち帰り残業が増えていると感じている割合は高い。コロナ対応や新カリキュラム運営による新科目の対応など、各教員の業務量は以前より多くなっていることが要因である。
7 財務	3.9(↑)	教員は年間3回の教職員会議で運営予算や決算状況について定期的な報告を受け、財務関係の理解が深まった。実習室の備品等について、年度計画で備品購入計画を立案し、教員へ周知している。
8 法令の厳守	3.8(↓)	ハラスメント防止規程、ハラスメント防止ガイドライン等の規程を整備し、学生及び教職員へ周知した。評価が低い項目は、教育情報の情報提供である。教育内容や教育成果の公開である。公開授業のほかに、ホームページで教育内容をタイムリーで公開する必要がある。(学生募集の項目とも関連)
9 社会貢献	3.6(→)	コロナ禍以前のように、ボランティア活動の依頼が減少している、市内で開催されるイベントは継続して参加してきた。



### III 重点目標に関する評価

基準日:2022年11月30日

#### 重点目標1:新入生の定員及び学生の総定員の確保 3.7

細目標	平均	細項目 平均	自己点検・自己評価 細項目	
(1)戦略的な学生募集活動 ・ホームページの情報発信、オープンキャンパスの運営、高校・施設訪問・進路ガイダンス参加	3.9	4.0	2-4-a	学校の教育理念・目標を反映した「求める入学生像」を示している
		3.8	2-4-b	社会の変化・地域のニーズ等を踏まえた学生募集の種類・方法を示している
		3.9	2-5-a	学校案内、学生募集要項、パンフレット等は毎年見直し作成している
		3.9	2-5-b	志願者が関心をもつような情報を提供している(学納金・教育活動状況・就職状況・奨学金・教育訓練給付金制度等)
		4.0	2-6-a	オープンキャンパス・学校見学会を実施し、高等学校等への訪問・進路ガイダンス・模擬授業等に積極的に参加している
(2)学業継続への支援強化 ・保護者と連携・強化、学生相談の活用とカウンセラーとの教育連携、学習不振・困難な学生への支援体制の強化	3.4	3.8	3-12-b	専門カウンセラーによる相談を整備し、教員と連携して学校生活を支援している
		3.5	3-14-a	保護者に教育・学習状況等の情報提供をし、適宜連絡・相談・面談を行っている
		3.6	4-28-a	教員は学生の個性を把握し、主体的に学習に取り組めるよう学生の立場に立って支援している
		3.6	4-28-b	集団による学習が円滑かつ効果があがるよう、計画し実施・評価している
		2.9	4-32-a	各年度で看護技術到達状況を評価し、課題の明確化、対策を講じている
		3.3	4-32-b	演習・実習での学習内容・方法を工夫し、看護実践力を強化している
		3.4	4-32-c	専門職業人として倫理に基づいた行動がとれるよう、支援している

#### 【今年度取り組み状況】

##### (1)学生募集活動

- ・オープンキャンパス8回実施した。7~8月に開催した際は、在校生にも協力し、参加者へ説明など積極的に行えた。
- 参加者総計128名(高校生65名、専門学校生1名、社会人11名、保護者51名)
- ・高校・施設訪問は4月から開始した。高校訪問はと病院訪問あわせて103件の訪問を実施した。(R3は70件)
- ・進学ガイダンスは県内高校8回(延31名)、県外高校6回(延25名)、業者ガイダンス参加2回、出前授業1校(6名)
- ・学試験は7区分実施(指定校推薦、公募制推薦、一般入学試験2回、学士社会人入学試験2回、就業施設推薦)しているが、応募者は減少している。
- ・学業継続支援
- ・個人面談の年間計画に基づき実施した。その他、個別の相談に応じて担任・副担任が支援している。
- ・各学年のクラス運営では、学年カリキュラムにあわせて年間計画を立案し、ホームルームを企画し実施している。
- ・学校生活の不安などに対して、学生相談(心理カウンセラー)を実施。1月までに延べ33名の学生が学生相談を利用。(R3は年間35名)
- ・演習、実習前には、学内で看護技術に関する事前学習を実施し、強化している。

#### 【課題・今後の取り組み】

##### (1)学生募集活動

- ・高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパスは継続して実施する。在校生参加のオープンキャンパスは参加者の満足度が高いため、継続する。
- ・入学生確保のため、県内及び近県の看護学校の入試状況の情報収集を行い、入学試験の時期や推薦入学の受験要件の検討が必要。

##### (2)学業継続支援

- ・学生個々の特性に合わせた対応を基本に、学年ごとの目標を設定し、効果的にクラス運営を実施する。
- ・多様な背景をもつ学生が、学校生活の悩みや学業継続、進路に関する相談をタイムリーに相談できるよう、学生相談回数を月3回に増やす。

#### 重点目標2 主体的な学習を支援し、看護師国家試験全員合格をめざす 3.5

細目標	平均	細項目 平均	自己点検・自己評価 細項目	
(1)主体的な学習への取組み・強化 (2) 学生の習熟度に応じた学習支援 (3) 科目試験・模擬試験の結果を分析し弱点克服に向けた指導の強化	3.5	3.2	4-23-a	授業内容は精選され、学生が主体的に学習できるよう効果的に構成されている
		3.5	4-23-d	看護の視点で、講義・演習・実習など学習ができるよう指導方法を取っている
		3.6	4-23-e	視聴覚教材の量と質は十分で、効果的に活用している
		3.7	4-23-f	実習・演習において、実習施設との連携による効果的な教育を行っている
		3.5	4-23-g	教員会議等で授業内容・方法の検討会・学習会を行っている
		3.4	4-31-a	各学年の国家試験対策への取組みを学生・保護者に説明している
		3.9	4-31-c	外部業者と連携し国試対策講座の実施、基礎学力の向上を図っている
		3.4	4-31-d	模擬試験の結果を分析し、学力低迷者を個別に学習支援している

#### 【今年度取り組み状況】

- ・新カリキュラム運用に伴い、主体的に学習できるよう教員会議で検討を重ね、授業・演習・実習の内容を精選している。
- ・各学年の学科進度に対応した国家試験対策の年間計画を立案し、模擬試験や国家試験ガイダンス、補習講義を実施している。  
(今年度の外部業者の国家試験補習講義:1年生3回、2年生4回、3年生12回実施。)
- ・学生の国家試験対策委員を中心に、空き時間を有効に活用できるよう主体的に動いている。
- ・国家試験出題基準をもとに、カリキュラム内容を再確認し、授業計画・授業依頼に生かしている。
- ・3年生は、模擬試験の結果をもとに、9月以降成績低学力者には、補習講義を実施し、個別指導も実施している。

#### 【課題・今後の取り組み】

- ・入学後から国家試験を意識した学習方法の指導。(暗記型から理解型へ)
- ・解剖生理などの基礎科目と看護の関連性が理解できるよう、授業方法の工夫を行う。
- ・国家試験結果と国家試験対策の評価を踏まえ、次年度の計画に活かす。

### 重点目標3:教職員の教育力向上及び教育内容の充実を図る 3.5

細目標	平均	細項目 平均	自己点検・自己評価 細項目
(1) 教員相互が教育力を高め合う支援体制	3.5	3.6	4-16-a 教育理念・目的・目標にあった科目を設定し、計画されている。
(2) 学生の良さ・強みを伸ばし弱点克服に向けた支援の充実		3.5	4-16-b キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立った教育課程の工夫・開発が実施されている。
(3) 新・旧カリキュラムの円滑な運営の推進		3.5	4-27-a 教員の能力向上のための研修・学会参加を奨励・支援している。
(4) 看護技術演習の指導を通じた教員・実習指導者の教育力及び看護実践能力の向上		3.3	4-27-b 学会・研修後は伝達講習を行い、教員間で知識・技能の共有化を図っている。
(5) 実習指導者・教員の教育連携の強化		3.5	5-40-a 実習指導者は学生に看護実践において適切に助言・指導している。
(6) ICT・教育教材の積極的な活用		3.5	5-40-c 実習指導者と教員は役割分担を明確にして学生指導に当たっている。
		3.4	5-40-d 実習指導者会議は定期的に開催し、効果的な意見交換ができる。
		3.5	6-51-a 教員のキャリア支援、目標管理制度を活用した助言・指導を実施している。
		3.8	6-51-b 研修・研究活動の予算措置を講じている。
		3.5	6-51-c 教員は教育・看護実践能力を高めるため研修・学会に参加している。

#### 【今年度取り組み状況】

- ・新カリキュラム運用開始され、新たな科目や科目内容の変更に対し、教員で教育内容の再確認や進度状況など、カリキュラム評価を実施しながら実施した。
- ・看護技術演習の公開授業（参加型・見学型）を継続し、実習指導者との教育連携を行っている。（延べ13名参加）
- ・実習施設との会議を計画的に開催し、実習状況及び実習評価の振り返り、学生の目標達成状況の報告を行い、振り返りを行っている。
- ・教員の教育力向上のため、研修予算を確保し、積極的に参加できるよう計画立案している。

#### 【課題・今後の取り組み】

- ・新カリキュラムが2年目となるため、教育進度を見直し、教員が協力して教育活動を実施する。
- ・学内演習、実習の教員の指導が統一して行えるよう、体制を構築する。
- ・教員会議等では、教員一人ひとりが自由に発言でき、関係の質が高まるよう、それぞれの意見を尊重する。
- ・効果的な実習指導者会議になるよう、実習上の課題を明確にして臨む。

### 重点目標4:県内就業率の維持・向上 3.8

細目標	平均	細項目 平均	自己点検・自己評価 細項目
(1) 学生に合った進路指導及び段階的なキャリア支援	3.8	3.8	3-11-b 施設等からの求人票等の情報を学生に公開し、活用しやすい環境を整えている。
(2) 就職・進学に関する最新情報の提供及び情報コーナーの活用		3.8	3-11-c 就職・進路の相談ができる体制や就職説明会を開催したり、施設主体の説明会に学生参加を奨励している。
		3.8	3-11-d 履歴書の書き方、面接に関する講座や個別指導を行っている。

#### 【今年度取り組み状況】

- ・1学年の面接から、進路指導を開始。各学年で就職に関する指導を実施している。
- ・就職活動のガイダンスは2学年の前期に実施し、インターンシップや病院見学を主体的に行えるようオリエンテーションを実施。
- ・業者の就職ガイダンスを計画的に実施。
- ・3学年では、個別に履歴書の指導、面接指導を手厚く実施している。
- ・1・2年生に対しては、年度末に就職ガイダンスを実施し、具体的に就職希望施設がイメージ出来るようにしている。

#### 【課題・今後の取り組み】

- ・就職ガイダンスは、1年生も参加して継続する。
- ・学生個別に就職相談を継続する。

### 重点目標5:組織の効率的及び効果的な運営の推進 3.5

細目標	平均	細項目 平均	自己点検・自己評価 細項目
(1) 学校運営・評価サイクルの充実	3.5	3.8	6-43-a 運営方針を策定し、事業計画とそれに伴う予算措置を講じて執行状況を報告している。
(2) 組織内・対外的な危機対応への連携・強化 (学生・保護者対応も含む)		3.5	6-44-a 教職員は経営意識を持ちながら、PDCAサイクルを展開している。
(3) 教職員の経営意識の向上及び歳出の削減の意識強化		3.7	6-45-a 教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができている。
(4) ワーク・ライフ・バランスの推進 (ノーカンク・残業デー遵守、毎月10日間の19時閉所、全職員が年休5日/年取得、ストレスチェックの高ストレス該当者ゼロ)		3.5	6-45-b 職務分掌・業務内容は効果的な業務遂行が図れるよう、定期的に見直している。
		3.5	6-45-c 職員は各々の職務分掌に則り、その役割を果たしている。
		3.5	6-45-h コンプライアンスに対する意識向上に努めている。
		3.2	6-45-i ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて取り組んでいる（ノーカンク・遵守、毎月10日間19時で閉所、年間10日以上年休取得等）。
		3.1	6-52-a 教員同士が相手の立場や役割を理解し、コミュニケーションが取りやすい雰囲気がある。

#### 【今年度取り組み状況】

- ・学校評価委員会において、年間計画通り実施。
- ・評価項目の重複を点検し、165項目から115項目へと修正した。
- ・ハラスメント規程及びハラスメント防止ガイドラインを作成し、その後教職員で共有した。ハラスメント対応に関する研修を教員全員が2回受講した。
- ・時間外勤務削減のため、業務調整と教員同士で声をかけ合い、目標の閉所時間19時は、ほぼ達成されている。昨年度よりも削減率は高いが、持ち帰りの業務も多い。
- ・年間の年休取得は平均10日間取得できた。5日間取得できない職員は3名であった。
- ・ストレスチェックで高ストレス該当者は5名であった。（R3年は2名）

#### 【課題・今後の取り組み】

- ・業務の質・量的状況の調整が必要
- ・学校関係者評価委員からの評価を受け、課題を明確にする。

## IV その他

### (1)令和4年度学生満足度調査 結果

- ① 調査における構成要素
  - ア 学校の使命である「教育」に対する学生の満足度
  - イ 教育をハード面から支える「施設・設備」に対する学生の満足度
  - ウ 教育をソフト面から支える「心身・社会的な学生支援」に対する満足度
  - エ 学校生活を通した人の良好な関係形成、自己成長に繋がる機会など、総合的な満足度
- ② 項目と質問内容：構成要素4項目をふまえた、小項目25の質問内容とした。
- ③ 評価尺度：不十分①、やや不十分②、どちらとも言えない③、やや十分④、十分⑤
- ④ 調査期間：令和4年11月24日～11月30日
- ⑤ 調査方法：Google フォーム アンケート
- ⑥ 回答率：全体93% (114名中110名 1年生：100%、2年生100%、3年生88%)

項目	質問内容	R4年 項目平均 ( ) は R3	R4年 小項目	R3 小項目	3.5以下の 項目の主な意見
教 育	①カリキュラムの科目構成は適切だと思う	3.5 (4.1)	3.7	4.2	②時間割：スケジュールが過密。急な変更がある。テストが集中している。
	②時間割は履修しやすい		3.4	4.0	③講義：内容が難しい。声が聞こえにくい事がある。
	③教員の講義は理解しやすいか		3.3	3.8	⑤実習：指導内容が統一されていない。分からぬことを聞いても適切な回答が返ってこない。
	④教員の演習は理解しやすいか		3.7	4.2	
	⑤教員の実習指導は理解しやすいか		3.3	4.1	
施 設 ・ 設 備	⑥教室の照明・空調・音響機器の設備が整備されているか	3.7 (3.8)	3.2	3.4	⑥教室の設備：マイクの音が聞き取れない。雑音がある。教室が寒く、暖房が使えない。冷房・暖房の制限があり、使いたいときに使えない。
	⑦看護実習室の室内設備・使用上の環境は整備されているか		3.6		
	⑧ゼミ室等の室内設備・使用上の環境は整備されているか		3.8	3.8	
	⑨体育館の設備・使用上の環境は整備されているか		3.9	3.8	
	⑩学生ホールの設備・使用上の環境は整備されているか		3.7	3.8	
学 生 支 援	⑪図書室の学習スペース・図書の貸出・蔵書数・種類等は整備されているか	3.8 (4.2)	4.1	4.3	
	⑫学内で交友関係を広げる機会はあるか		3.4	3.7	⑫交友関係の場：コロナで開催できないのはわかるが、もっと他学年と交流したい。聞きたいことも聞きづらい。
	⑬昼食環境・移動販売の環境は整備されているか		3.9	4.5	
	⑭健康診断など健康面の支援体制は取れているか		4.0	4.4	⑯教員の支援体制：面談の回数が少ない。精神面の支援は不十分
	⑮カウンセラーによる精神面の支援体制はとれているか		4.1	4.3	
	⑯教員との面談による学習・メンタル面の支援体制はとれているか		3.5	4.0	⑰就職支援：情報が少ない。
	⑰就職支援の情報の充実さや担当者からの支援体制はとれているか		3.5	3.9	
	⑱国家試験対策の取り組み・支援体制はとれているか		3.7	4.1	
	⑲修学資金・奨学金制度の紹介や授業料等の納付金の微収猶予等の支援体制はとれているか		4.0	4.4	
	⑳各種事務手続きや窓口対応に満足しているか		4.3	4.5	
学 校 生 活	㉑看護師に必要な知識・技術・態度を学べているか	3.8 (4.2)	4.0	4.4	㉔キャリア形成：考える暇はない。まず卒業と国家試験のため、将来のことは考えられない。この道でよいのか迷っている。
	㉒学校生活を通じて、教職員・友人等との出会いが人としての成長につながっているか		3.9	4.3	
	㉓学生生活を通じて、看護職を目指す者として成長出来ている実感がある		3.9	4.2	
	㉔学校生活を通じて、将来のキャリアプランを描けているか		3.5	3.9	
	㉕総合的にみて、本校の学びや学生生活に満足しているか		3.6	4.1	

#### <令和4年度 学生満足度調査結果を受けて…>

- ・昨年度より、全項目のポイントが低下した。自由記載では、多くの学生から率直な意見が聞かれた。調査方法を、紙面からWeb方式に変更したこと、自由に意見を入力しやすくなったことが要因と考えられる
- ・教育に関する満足度が昨年度より-0.6ポイントと大きく低下した。特に「実習指導」は-0.8ポイントである。要因として考えられることは、実習直前の担当教員の変更や異動による教員の入れ替えがあり、実習の進め方や指導方法に関する共有化、共通理解が不足であったことが考えられる。今後は、実習オリエンテーション前に実施する教員会議を活用して、実習の目的目標・方法、指導方法、評価ポイントについて共通理解を図ることを強化していく。
- ・施設設備の満足度が低い項目では、教室の「マイク」に対して多くの意見が聞かれた。満足度調査の以前から、学校側は把握していたため、マイク購入の手続きをしており、11月末には新しいマイクを設置した。その後、学生からの意見は出ていない。
- ・学生支援については、教員との面談を年間計画として実施している。その他、適宜個人面談を実施しているが、学生個人の特性にあった支援方法を学校カウンセラーと相談するなど、支援体制を工夫していく。
- ・就職支援は、昨年度も全体として低い項目であったため、情報コーナーを整備した。学生が学校に求めている就職支援を具体的に振り返ると、低学年からどのように就職活動を進めるかなどである。そのため、就職活動に関する年間スケジュール（3月開催の就職説明会）など学校側の支援と学生個人で行う就職活動などを具体的に提示することが必要である。今年度から、1年生にも3月に開催する就職説明会に参加させ、就職活動のイメージを持てるようにする予定である。
- ・キャリア形成支援及び当校の学校生活の全体の満足度の低下がみられた。学生の意見では、現在の学業を継続すること、単位を取得し卒業、そして国家試験合格が目の前の目標であり、将来の看護師としての具体的な自身の姿を描くことが難しい状況であることが把握できた。3年間の看護教育として、学生自身が経験から学んでいける力を身につけ、自身の将来のイメージを持てるよう、ひとり一人の学生を尊重し、成人学習者として支援する。



## (2) 公開授業の実施結果

### 1) 基礎看護技術演習等の公開授業の目的

本校では、平成27年度から、専任教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目的として、看護技術演習の授業に、実習施設の実習指導者が見学する「見学型」公開授業を実施している。令和2年度より学生のレディネスの把握や現在の看護技術の方法など、実習の中で実施する機会の多い看護技術と新人教育で実施する看護技術を「参加型」として公開授業を実施している。

授業実施後は、実習指導者との意見交換を行い、客観的なご意見をいただくとともに、アンケート結果等を参考に授業評価を行っている。他者からの多面的・客観的評価を受けることで、教授方法の改善や看護実践力の向上に繋がっている。

また一方で、実習指導者からは、学生のレディネスの理解や臨地での指導方法の検討に繋がった等のご意見等をいただき、双方での効果的・発展的な意見交換の場になっている。

### (2) 授業計画

	月 日	時 間	教 科 目 ・ 内 容	教員	見学型	参加型
1	7月13日(水)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅰ(洗髪)	池田	○	—
2	8月23日(火)	13:15~14:45	解剖生理学IV(消化器)演習	山崎	○	—
3	8月23日(火)	9:00~12:10	日常生活援助技術Ⅰ(清拭)	池田	○	—
4	8月24日(水)	9:00~12:10	看護の基本となる技術Ⅰ(バイタルサイン)	早瀬	○	○
5	9月6日(火)	10:40~12:10	看護の基本となる技術Ⅱ(フィジカルアセスメント)	稻葉	○	—
6	9月26日(月)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅱ(活動・休息)	海老沢	○	—
7	11月2日(水)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅲ(便器・尿器介助)	上田	○	—
8	10月24日(月)	13:15~14:45	看護の基本となる技術Ⅱ(腹部聴診打診)	稻葉	○	○
9	11月22日(火)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅲ(陰部洗浄・オムツ交換)	上田	○	○
10	2月16日(木)	13:15~16:25	看護と薬理(筋肉内注射)	青木	○	○

### (3) 案内施設:臨地実習施設(14施設)、他

種類	施設名	施設数
病院	城西病院、結城病院、友愛記念病院、ホスピタル坂東、古河赤十字病院、茨城県西部メディカルセンター、茨城西南医療センター病院、下館病院	8病院
老健・老福施設	介護老人保健施設すばる、特別養護老人ホームしらとり	2施設
訪問看護ステーション	愛美園・春風・ゆいナースステーション・筑西診療所訪問看護ステーション	4施設
他	結城市健康増進センター、県内看護師養成所(基礎看護学領域グループ)	

(4) 結果　・授業終了後にアンケートと、意見交換会を実施した。(＊1月31日現在の参加状況)

参加授業及び人数	内容(参加人数)			
	見学型:合計7人	解剖生理学(消化器):4人	便器・尿器介助:1人	陰部洗浄おむつ交換:2人
参加型:合計3人	バイタルサイン:1人	フィジカルアセスメント(腹部胸部打診):1人	陰部洗浄おむつ交換:1人	
<b>参加理由(複数回答)</b>				
①看護基礎教育で行われている学習(演習)に興味があった:8人		④自分の看護技術を振り返る機会にしたい:2人		
②今後の学生指導に活かしたい:8人		⑤上司に勧められた:2人		
③学生のレディネスを把握したい:2人				
<b>演習の進め方</b>		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない
①演習の時間配分は適切だった		7人	3人	-
②演習の学生の反応をみながら進められていた		9人	1人	-
③資料は実習にも活用できるものだった		7人	2人	-
④学生は演習に真剣に参加していた		9人	1人	1人
⑤演習は実習指導に役立つ内容だった		9人	1人	-

自由記載 *()は参加した演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が主体的に参加できるような働きかけが出来ていると思った。(解剖生理)</li> <li>・先生のまとめが看護につながる内容で学びが深かった。(解剖生理)</li> <li>・一緒に楽しみながら参加させていただきました。(バイタルサイン)</li> <li>・学生さんは積極的に演習に参加できていて良かったと思います。(フィジカル)</li> <li>・最後のまとめがとても学生に分かりやすい感じでした。(見学型:便器・尿器)</li> <li>・活発に意見や質問が出来る環境で良いと思った。(見学型:便器・尿器)</li> <li>・テキストの内容と実際に使用している使用物品や方法などに違いがあるため、開始前に教員に確認したほうが良いのではと思った。(見学型:陰部洗浄・おむつ交換)</li> </ul>
ご意見・ご感想 *()は参加した演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク発表の前の授業も見学させていただきたい。(見学型:解剖生理)</li> <li>・今までこのような機会はないため、良い企画だと思う。(見学型:解剖生理)</li> <li>・FD* は専門学校も義務化したほうが良いと考えているから(見学型:解剖生理)</li> <li>・学生と指導者の顔が見える関係を築けるため、今後の実習でコミュニケーションが取りやすいと思った。 (参加型:バイタルサイン)</li> <li>・学生の学ぶ姿を見る機会があり、良かったと思いました。(参加型:フィジカル)</li> <li>・学生の学習の方法を知れてよかったです。良い企画だと思う(見学型:便器・尿器)</li> <li>・今後の学生指導に活かしたい(見学型:陰部洗浄・おむつ交換)</li> <li>・病棟で行っているやり方と学生のやり方が違うと学生も戸惑ってしまうのでこの企画は良いと思う</li> <li>・学生さんが一生懸命取り組んでいる姿を拝見し、私自身日々の看護ケアが義務的になっていることに気づかされました。(参加型:陰部洗浄)</li> <li>・授業での指導方法などの確認ができ、実習指導の際に参考にしたい(見学型:陰部洗浄)</li> </ul> <p>&lt;公開授業の希望&gt; ・看護過程 ・医療安全 ・急変時の講義演習</p>

\*FD(Faculty Development: ファカルティ・ディベロップメント): 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など。(文部科学省HP: 中央教育審議会 大学分科会 制度部会資料より)

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm) 2023年2月1日閲覧)

#### 【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ・参加した実習施設の実習指導者は、当校の看護技術教育の内容を確認することや、実習での学生指導に活かしたい、卒業後の現任教育に活かしたいとの希望で参加された。
- ・「参加型」の公開授業は今年度で3回目となり、学生のレディネス把握や自身の技術の振り返りなど、実施する効果は大きいとの意見が聞かれている。事前に既習学習の内容や授業の目的・方法などの演習計画を具体的に説明している。演習当日には、担当教員と最終チェックを実施し、演習に参加した。そのことで、学生の質問に対応でき、学生の動きをよく確認していただけている。事前打ち合わせは、今後も継続し目標を共有していきたい。
- ・「見学型」「参加型」公開授業を開催することで、教員と指導者の顔が見える関係が築けることに繋がり、基礎教育の看護技術に関する課題を共有し検討する機会となっている。看護基礎教育と看護職員の新人教育が円滑に進むよう学校と施設が教育を連携する方法を今後とも検討していきたい。
- ・教員の教育力向上のための取り組みとして、授業評価や学生満足度の意見も踏まえ、課題を整理して次年度以降も継続していきたい。

### (3) 授業参観・学校行事(戴帽式)に参加した保護者アンケート調査

#### 1) 授業参観開催の目的

学校評価における授業評価は「わかる授業」をめざし、学校組織として多面的・多角的に授業を評価することで、学校全体の授業改善につなげている。保護者に対して、どのような授業が実施されているか公開することは、看護の学習への理解を深め、家庭と学校が連携協力体制を構築するうえでも重要である。

さらに、看護師養成所での教育を保護者に理解してもらうことによって、年々難化している看護師国家試験への対策や、学生の家庭での学習の動機づけを強化してもらえる機会にもなる。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、入学式・戴帽式を縮小したため、保護者会を開催できなかった。今年度は、感染対策を行いながら、学校行事である入学式・戴帽式を保護者1名参加として開催した。また、全学年の保護者を対象に公開授業及び保護者会を計画した。公開授業後には保護者から意見を授業評価に活用するとともに、保護者会や個別相談の時間を設け、看護基礎教育への理解と学習支援のための協力を得ることを目的とする。

#### 2) 内容・方法・結果 (\*開催月日順に記載)

対象学年・日時・授業内容・ねらい	結果(参加人数・アンケート結果)
<p><b>【3年生(28回生)】</b>  <u>令和4年12月21日(水)13:15~14:45 (15:00~保護者会)</u>  <u>科目:卒業前の技術練習(がん化学療法による副作用出現時の患者の看護)…教科外学習</u>              3年生は、3年間の臨地実習がすべて終わり、国家試験に向けての学習が本格化する。これまで習得した看護技術の再確認と卒業時技術レベル到達に向けて、3年間の知識・技術の総まとめを行う。保護者には学習成果を見てもらい、今後の国家試験の学習支援を依頼したい。</p>	<p>申し込み:2名、参加者:1名  &lt;アンケート結果・ご意見・感想&gt;              演習を見てグループ内で自分の意見を発言したり、他者の意見を聞いている姿をみて、仕事を始めてから役に立つと感じた。保護者会では、国家試験までの今後のスケジュールが理解できてよかったです。いつも精神的にフォローしてくださりありがとうございました。</p>
<p><b>【1年生(30回生)】</b>  <u>令和5年1月13日(金)13:15~16:20 (終了後、保護者会)</u>  <u>*新型コロナ感染拡大のため、授業参観及び保護者はオンライン開催に変更し開催した。</u>  <u>科目:看護の基礎となる地域演習Ⅱ(退院支援に関わる施設見学の成果発表)</u>              本科目では、地域で暮らす人々と家族の暮らしを理解し、実際に地域で働く医療者から話を伺いGWで学習を深めることをねらいとしている。保護者には、地域演習の学びの発表に参観してもらうことによって、看護教育内容の理解を深めるとともに、保護者会をおおして、専門領域の学習が開始し、より幅広い知識・技術の習得が必要となることを伝え、日々の学習が2年後の国家試験につながることを伝え、家庭での学習支援につなげてもらう。</p>	<p>申し込み:13名、参加者:8名  &lt;アンケート結果・ご意見・感想&gt;              ・できれば授業風景を見たかったが、オンラインでも開催してくれてありがとうございます。今後も、継続を希望する。(意見多数)              ・演習の授業参観もぜひお願いしたい。              ・実習前的心構えや国家試験の内容が分かってよかったです。資料だけでは分からない多くのことが聞けて満足です。              ・グループごと、よく発表が出来ていた。質問や感想を述べたり、オンラインでも授業の様子は十分伝わった。              ・この学校に入学させて本当によかったです。</p>
<p><b>【2年生(29回生)】</b>  <u>令和5年2月3日(金)13:30~15:55(終了後、保護者会)</u>  <u>科目:看護を総合する技術「指導技術」(個別指導・小集団指導)</u>              2年生は、これから領域別実習が開始する。実習では、疾病を抱えながら日常生活を送る対象に対して健康教育や保健指導する機会がある。本科目では、対象のニーズにあった指導計画を立案し、効果的な指導内容・方法のあり方をGW学習する。保護者には、対象に応じた保健指導の演習風景を参観してもらい、看護師の役割の理解を深めてもらいたい。保護者会では、最終学年となり国家試験の現状や今後、実習と並行して進めるために、より一層の学習支援の協力ををお願いする。</p>	<p>申し込み:8名 参加者:7名  &lt;アンケート結果・ご意見・感想&gt;              ・グループ毎に発表ができ良かった。              ・全てが看護に必要なことを学べる授業だと思った。              ・学習内容、態度、雰囲気が分かるので良い企画だと思う。              ・看護技術の授業が見学したい。              ・もっと頻回に開催してほしい。              ・国家試験のことが理解できてよかったです。</p>

### 3) 戴帽式及び保護者会に参加した保護者のアンケート結果

#### <戴帽式について>

- ①戴帽式日時:令和4年10月12日(水) 13時30分~15時
- ②参加人数:戴帽生(1年生)…39名、在校生(2・3年生)…76名 1年生保護者…32名 教職員17名
- ③来賓者:理事長、県保健福祉部長、西南医療センター院長、県西部メディカルセンター看護部長
- ④アンケート結果:
  - ・内容: 大変良かった(22名)、良かった(3名)
  - ・感想: ・子供たちがナースキャップを被る姿や、表情を見ることが出来て、とても良かったです。
  - ・キャンドルサービスがとても感動しました。
  - ・憧れていた儀式を目にすることが出来、嬉しかったです。ロウソクの灯が感動的でした。
  - ・初めて見る光景にとても感動しました。ありがとうございました。
  - ・厳粛な雰囲気で執り行われた式典が行われ、とても感動しました。生徒たちも堂々とした態度で臨んでおり、決意も感じられ、とても良かったです。
  - ・入学してまだ1年も経っていませんが、子供の成長を感じる事ができた式でした。
  - ・一生に一度の戴帽式。看護師として将来歩んでいく中で、心に残る式になったと思います。これから看護という現場で壁に悩み戸惑う時、この戴帽式の自分を思い出して頑張ってほしい。
  - ・戴帽式の子供達はとても立派に見えて感動しました。
  - ・戴帽式という節目出席でき、少し成長した姿を見ることができたからとても良かったです。
  - ・夢に向かっている姿に感動しました。
  - ・娘の成長を見ることが出来て、式に出席して良かったです。一人一人の表情が見えた式典でした。

#### <保護者会について>

- ①日時:戴帽式後 15時30分~16時 場所:図書室 参加人数:20名
- ②内容:
  - ・本校の看護教育の現状(年間スケジュール含)
  - ・学校生活について(在籍学生背景と現状、学習震度状況、出席状況、クラスの指導目標)
  - ・国家試験対策、公開授業(授業参観)のご案内
- ③アンケート結果:
  - ・内容: 大変良かった(5名)、良かった(11名)、無回答(4名)
  - ・感想: ・しっかり説明頂き、今後の予定も聞けて良かった。
  - ・学校の様子(授業内容)等聞く事ができ、良かったと思います。
  - ・スケジュールの再確認ができ良かったです。
  - ・次の公開授業も楽しみにしております。
  - ・学校での様子が少し分かったので安心しました。
  - ・担任の先生のお話もわかりやすく、前もって色々聞くことが出来ました。
  - ・その他、本校に対するご意見:
    - ・ホームページ等の更新をして、学校での様子を分かるよう(見られるよう)にしてほしい
    - ・男子のハンカチーフがポケットに入ってしまい、ただの実習着だけになってしまっていた。もう少し見えるといいと思いました。
    - ・先生と学生の信頼関係が大切だと感じています。今まで通り、よろしくお願ひします。
    - ・先生との面談を増やしてほしいと思ってます。先のことには不安があり、親としても医療分野に詳しくないため、何のアドバイスもしてあげられません。

### 4) 今年度の評価

- ・今年度は、来校での授業参観とオンライン開催に変更など、COVID-19の感染拡大状況にあわせて、方法を変更して開催できた。
- ・1年生の入学式や戴帽式後の保護者会で、年間スケジュールとして授業参観を開催する旨を伝えていたため、参加希望者は13名であった。オンラインでの開催に変更となつたが、参加した保護者からは、専門学校でも授業参観を実施してくださり、授業の様子が分かったと好評だった。校内の学生の様子や、学年の特徴などを直接伝える場となり、保護者との支援体制を強める有益な時間に繋がっている。
- ・次年度も、学年ごとに保護者対象の授業参観及び授業参観後の保護者会を継続実施する方向で進めたい。

#### (4) 看護職員研修に参加した看護職員のアンケート調査

##### 1) 研修企画の基本的な考え方

茨城県看護教育財団研修は、看護師養成及び茨城県西地域の病院、診療所、看護学校等に従事している看護職員を対象に、看護実践力及びサービスの質の向上を目的に、開校当時から実施している研修事業である。

研修内容は、厚生労働省の第6回看護基礎教育検討会(平成30年10月26日)で示された「看護師に求められる5つの看護実践能力(Iヒューマンケアの基本的な能力、II根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、III健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかる実践能力、IVケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、V専門職者として研鑽し続ける基本能力)」及び平成29年に日本看護協会が標準化した「看護師のクリニカルラダー」を基に企画している。

今年度は、看護実践能力を高め、質の高い医療・看護サービスの提供をするために、看護専門職の人材の育成のための継続教育・教育計画に焦点をあてた研修を企画する。

##### 2) 今年度の研修ねらい

日本看護協会「看護師の倫理考慮」の条文(8項)には「看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める」と掲げてある。看護専門職としての資質を向上させるために、継続して学び続けることが社会に対する責務となっている。そのため、個人のキャリア発達を支えるために組織として効果的・効率的に人的資源管理を行う仕組みづくりが必要である。そのため、看護基礎教育修了した看護師が、自律した専門職業人として段階的に看護実践能力を向上するための教育的支援としてキャリアラダーシステムが導入されている。

そこで、地域に従事する看護職員が、看護の質を高め、専門職としての個々の目標やキャリアプランを形成することが出来るよう、組織全体で支援している例を紹介し、人材育成するための組織としてのあり方(人材育成のための組織的戦略)を考える機会としたい。

3) 主催 茨城県結城看護専門学校及び茨城県看護協会 合同研修

4) 日時 令和4年10月29日(土) PM 1:30~3:30(研修90分、質疑応答30分)

5) 方法 茨城県看護協会・当財団との合同研修、対面及びオンラインによる研修(学校から発信、受講場所(施設、看護協会個人会員は在宅か学校内会場)、期間限定(11月7日~1か月間)オンデマンドで配信。

6) テーマ 「地域に必要な看護職員を地域で育てるための組織的支援」

～看護師に応じたキャリア形成を支援するために～

7) 講師 山下 美智子 氏(公益財団法人筑波メディカルセンター看護部門長、茨城県立つくば看護専門学校 校長)

8) 対象者 県西地域の看護職員及び看護教育関係者(筑西・下妻保健医療圏、古河・坂東保健医療圏)

申し込み者…183名(内訳…当日会場:53名、当日オンライン:22名、オンデマンド:130名)

9) 受講者 当日参加者…51名(会場29名、オンライン22名)

オンデマンド参加者(1ヶ月間)…動画再生回数119回 合計:170名(推計)

##### 10) アンケート結果

①回収率:30%(52人)(内訳…当日:会場68%(20人)、オンライン40%(9人)、オンデマンド18%(22人))

②年齢:51~55歳23.1%、41~45歳21.2%、56歳以上19.2%、46~50歳19.2%

③勤務年数:31~40年28.8%、21~30年25%、41年以上21.2%、11~15年13.5%、16~20年11.5%

④勤務先:

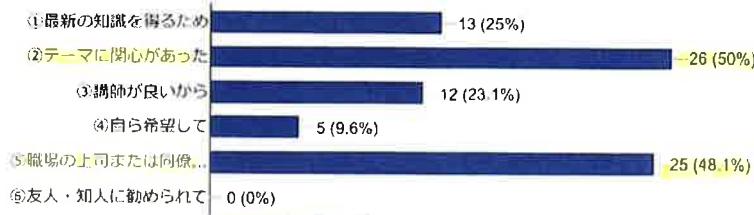
【病院】	20~199床	200~299床	300~399床	400床以上	無床
	26名(60.5%)	6名(14%)	0名	8名(18.6%)	3名(7%)

【病院以外】	訪問看護ステーション	保健所・保健センター	老人福祉・介護施設	看護学校・教育機関
	5名(38.5%)	0名	0名	8名(61.5%)

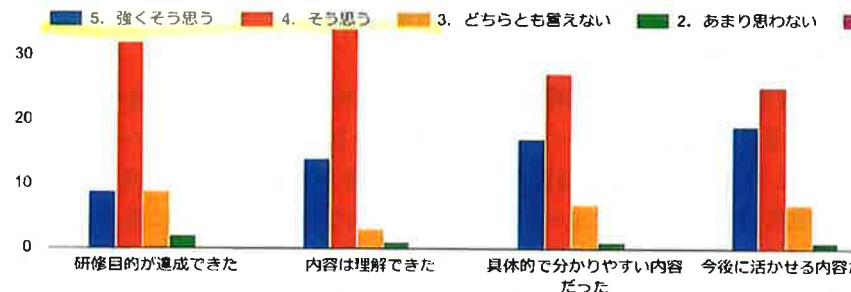
##### ⑤ 研修の受講動機 ※複数回答

最新知識の獲得	テーマに関心	講師が良い	自ら希望	他者の勧め	WEB配信
13(25%)	26(50%)	12(23%)	5(9.6%)	24(48%)	9(17%)



## ⑥研修内容

※複数回答



## ⑦感想等

- ・人事考課表の評価者研修が大切だと再確認できました。人材育成は、今後の大きな課題ですが、本日の講義を参考にし、実践してみたいと思います。
- ・人材育成について人事評価方法やチャレンジ目標の設定など、とても勉強になりました。
- ・スタッフを看護師として成長させるための支援者としてのフィードバックの仕方を具体的に学ぶことができたので、今後の面談時などに活用していきたいと思います。
- ・事例を交え内容が具体的で、まさに今の自分が求められている事の様な内容でもあり、とても参考になりました。
- ・キャリアデザインに関してとても興味深く聞かせていただきました。
- ・スタッフの成長を促進するためのステップアップ目標など学べた。是非取り入れたい。
- ・地域で働く看護師のキャリア形成についての知識が今後の業務に活かせそうです。
- ・貴重なお話でとてもためになりました。今後に活かせる内容であり、今回参加できなかった人にも聞かせたい。
- ・ハイブリッド開催でしたので、トラブルは許容範囲と思います。WEB配信があると参加しやすくて良いです。
- ・対話の大切さを改めて感じた。人は、動機づけし、仕事を任せ、支援することが成長につながる。じっくり待つことも時に必要である。
- ・看護師を育てるためには、その看護師の背景も考慮しないといけないと思った。また、自分で異動先を選ぶのは難しいので、ローテーションでその看護師の経験に合う場所を選んで提供するといいと言っていて、なるほどと思った。
- ・内容が盛りだくさんだったので参考文献なども読んでみたいと思う。人材育成には年単位でそれも3~5年かけているとあったため、ある程度のスパンが必要なのだとわかって焦りが減ったように思う。
- ・一度では理解しきれなかったので、受講期間内に再度動画視聴し、理解を深めたいと思います。
- ・中堅看護師の育成に難渋していたため、目標設定やフィードバックの仕方について具体的に知れてよかったです。
- ・人材を育成するためには、考えを引き出し共に考えていくことが重要だと学びました。
- ・4年目になるのですが、看護師は日々勉強だと思いながらも怠ってしまったり、目標が見出せなくなっていました。講義を受けて、自分の足りないところが分かりました。もっと早く受けたかったです。ありがとうございました。
- ・もう少し地域というテーマを重点にして講義していただきたかったです。
- ・県西地区では看護職員を育てるのにどのような支援をしているのかも知りたかった。

## （1）振り返り

- ・この研修は当校開校から開始し、今年度は30回を迎え、受講者は総勢3400名を超えた。
- ・医療機関に勤務する看護職対象の研修であるため、新型コロナ感染の状況から、対面及びWEBとのハイブリット方式で開催することで、受講しやすく有効であった。今年度で2年目になるが、今後も開催方法を工夫したい。
- ・県西地域の医療・看護に具体的に活用できる研修内容の希望もある。茨城県看護協会筑西・下妻地区との合同研修として、研修ニーズを把握し、テーマ・講師を厳選して決定し、協力して企画・運営をすすめ、地域に求められる研修を開催していきた。
- ・課題として、オンライン・オンデマンドのアンケート回答率が低かった。昨年度は、FAX・郵送による回答では手間がかかり、回収率が下がったため、今年度はQRコード(Googleフォーム)で実施したが、さらに回答率が下がった。施設代表者にも、協力を仰ぎ、さらに動画視聴後の画面にQRコードを映し出すなど、アンケート協力を強化して依頼していきたい。

## ▽ 全体を通して

自己評価は平成30年度から開始し、今年で5年目の実施を振り返り、以下の点を全体評価とする。

### ①自己点検・自己評価について

・自己評価表は毎年点検し、評価項目の重複を確認するなど、必要な事項が網羅されるよう整備してきた。今後も、項目内容を質的に評価できるよう、評価指標を具体的に提示できるようさらに検討を進めていく。

### ②重点目標（組織目標）の評価

・目標に対する取組について、評価方法・尺度の検討が十分でなかった。  
目標を設定する際に、その点も視野に入れて検討を進めていく。

### ③その他4つの取組の評価

・4つの取り組みは、毎年実施している事業である。経年で比較することにより、課題点が明確になるため、継続して評価していきたい。学校運営に関して、学生及び保護者、外部からの貴重な意見を大切にして、学校が発展継続できるよう取り組んでいきたい。

以上



# 令和4年度学校評価 学校関係者評価報告書

茨城県結城看護専門学校

## 1 評価委員構成

評価委員…9名 内訳：実習施設関係者4名、教育機関3名、卒業生1名、行政機関1名

## 2 学校の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	5人 (55%)
評価は概ね妥当である (課題が少しある)	4人 (44%)
評価はやや妥当である (課題がやや多め)	—
評価は妥当とは言えない (課題が多数ある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・評価点は高く、ほぼ達成できている。達成できた要因と対応が具体的かつ簡潔に明示されると良い。
- ・過去5年間の評価をみると、今年度の評価が最も高く、大変良い。
- ・基礎データに基づき具体的に評価ができている。コロナ禍による対応で努力した点は評価に加味して良いのではないか。
- ・学校や教員一人ひとりが努力されており、評価は概ね妥当である。
- ・病院側と連携して、新人教員の受け入れ態勢の整備に取り組んでほしい。
- ・教職員の協働意欲や新人教員のサポート体制、連携に関する対策は、難しい課題である。
- ・評価項目が164項目→115項目に減らし、項目は網羅されている。減らしたことによる不都合や不十分な点に留意して、次年度の評価と合わせて細項目の検証が必要。
- ・前年度から下がった細項目について、優先度を考え、重点的に目標設定するなど、長期的に取り組むと良い。
- ・現在の看護教育において、「4-21-b、4-21-c」は、「4(適切)」にはなりにくいのが現状である。教育に携わる者としてより良い授業・指導のために考える時間は無限であり、教育として常にアンテナを高くすることは当然のことと考える。個人の能力の違いによって、要する準備時間の違いもあので、「4-23 教育方法の工夫・研究 (学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じている)」に含まれる内容として、この項目を削除してはどうか。
- ・新、旧カリキュラム混在した中での対応のご苦労がある中で、無理のない範囲で来年度の課題に対応していくだきたい。

### 3) 改善点・今後期待する点

- ①削除した項目による影響の検証と低下した細項目への取り組み
- ②新人教員のサポート体制の強化と連携

## 3 重点目標の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	5人 (55%)
評価は概ね妥当である (課題が少しある)	4人 (44%)
評価はやや妥当である (課題がやや多め)	—
評価は妥当とは言えない (課題が多数ある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・重点目標5つすべてで評価ポイントが3.5以上であり、カリキュラム改正後であるが重点目標はほぼ達成されている。今後は、結果分析方法の探求が必要。今年度に評価が下がった項目を含め、貴学として外せない重点項目の根拠が示されると良い。

- ・重点目標1の取り組みとして、学生の学習継続への支援に、心理カウンセラーの連携は良い取り組みである。また、学生相談は学生にとって必要な場であるため、さらなる活用ができるよう工夫が必要。
- ・重点目標2の学習支援のポイントが、教員・学生側も3.3～3.4と他に比べて低い。互いに課題を感じていると考えられるため、次年度に向けた改善を期待したい。
- ・看護師国家試験連続100%合格への取り組みは、先生方も緊張していると察する。継続に向けて支援を期待する。
- ・重点目標4 進路指導では、本人が十分納得して選び、就職後のサポートも必要と感じる。(就職先↔学校の連携)
- ・地域の就業者確保に大きく貢献している。今後も継続して期待したい。
- ・重点目標5で、ストレスチェックで高ストレス該当者の割合が多い(昨年に比べて3人増加)結果については、学生へのきめ細やかな指導の実践と勤務(超過・持ち帰り業務)時間のバランスをしっかりと議論し調整が必要。その上で、今後の改善を期待したい。
- ・教職員の働きやすい環境への調整は、様々な課題があるが、努力していることが伺える。学生へのきめ細やかな対応と相反するところもあり、難しいところではあるが、負担軽減を図りつつ、学生への丁寧な指導は継続してほしい。

### 3) 改善点・今後期待する点

- ① 重点目標の設定の根拠を示されたい
- ② 学習継続へのきめ細やかな指導の実践と教員の勤務のバランスを議論し調整すること
- ③ 職員のワークライフバランス推進を含め、高ストレスチェック該当者への組織的支援

## 4 5つの取組み評価についての評価

### <ご意見>

#### 1) 学生の学校生活満足度調査

- ・キャリア形成に関して低い評価というのが気になる。調査時期の影響もあるのではないか。はっきりとしたビジョンでなくとも、看護観や理想の看護師像を持つことも大切と思う。
- ・見えてきた課題に対して建設的に捉え、改善に向けて取り組む学校側の姿勢を評価したい。
- ・学生時代を振り返り、学校を評価するという視点から、卒業生への満足度調査の実施も検討を期待したい。

#### 2) 公開授業・授業参観・学校行事・財団研修等のアンケート

- ・公開授業は臨床における教育検討に役立っている。今後も参加型・見学型公開授業を継続してほしい。
- ・今年度、評価委員として公開授業に参加し、積極的に学生が発言(質問やそれに応じる力)に感心した。
- ・学生に関わる他の組織の職員や保護等に公開していくことは、学生の緊張感をもって授業に臨めると考える。
- ・公開授業が教育力向上につながっているか、講義と演習との関連性の効果を評価できると、実習までの学習プロセスを教育評価できると感じる。
- ・少ない教員数の中で、実習施設及び保護者と教育連携体制を強化している努力は素晴らしい。
- ・コロナ禍において、感染対策等で学校の負担もいつに増して重かったと考えられるが、縮小したとはいえ、学校行事を行えたことは良かった。
- ・開校年度から、財団研修を継続して30回目まで継続できたことは、素晴らしい。県西地域の看護専門職の現任教育への貢献度は、高い評価に値する。継続は力なり。看護職員の看護力向上に向けて、今後も期待したい。

## 5 その他のご意見など

- ・全体的に、現代の学生に合わせた学習環境を整えていると感じる。課題についても解決・改善に向けて丁寧かつ前向きに取り組んでいる姿勢が伝わる。
- ・今後も病院と学校が協力しながら学生を支援していく関係でいたい。

以上